

JIM-NET 便り

2024 11 月号

発行：2024年11月8日



特定非営利活動法人 JIM-NET (ジムネット)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4丁目4番11号 内藤ビル2C
電話 03-6228-0746 メール info-jim@jim-net.net



JIM-NET
الشبكة الطبية اليابانية العراقية

いのちをつなぐ チョコ募金、 今年もよろしく お願いします。

鎌田 實 (JIM-NET 名誉顧問・医師・作家)

JIM-NET は、イラクのアルビル、バスラ、バグダートでの小児がん患者支援、シリア難民やイラク国内避難民への緊急医療支援などに取り組み、中東の平和に貢献しながら国内では福島の子どもたちへの支援とともに約20年間活動をしてきました。

先日 (2024 年 10 月)、『私は憎まない』というドキュメンタリー映画上映が JICA 地球ひろば・国際会議場で行われ、ぼくとイゼルディン・アブラエーシュ博士とのトークイベントにて博士と10年ぶりの再会を果たすことができました。彼はイスラエルの空爆を受けて、3人の娘を殺されました。イスラエルに娘の死の責任を追及するも、復讐心や憎しみを持たず、彼の和解と許しの精神は、世界中の人々に感動を与えています。彼はこう言いました。「もし私の娘がパレスチナ人とイスラエル人の平和への道のりの最後の犠牲であるならば、私は娘の死を受け入れるだろう」。

ぼくは、2011年に『アハメドくんのいのちのリレー』(集英社)という本を書きました。10年前の本ですが、最近たくさんの方に読み始められています。ヨルダン川西岸パレスチナ自治区では、自治が守られているはずなのに、イスラエル兵やイスラエルの警察官が銃を持って街角に立っている。そして理由もなく、時々パレスチナ人が銃撃されることがある。12歳のパレスチナの少年が撃たれ、脳死状態になりました。イスラエルのドクターから「息子さんをもう助けることはできないが、息子さんの心臓は、病気の子どもを助けることができる。心臓をいただけませんか?」と言われ、撃たれた少年の父親は承諾をする。ぼくが父親だったらと考えました。絶対に自分の息子の心臓を敵にあげたくない。このお父さんは、どうして承諾できたんだろう?と不思議に思っていました。

その頃、スイスでの講演に招かれ、講演の後パーティーで、ぼくはこの疑問を投げかけました。いつか平和がやってきた



ら、ぼくはパレスチナ自治区とガザに行きたい。このお父さんを訪ねたいと言ったら、スイスの国連関係機関で働く人たちが「まだまだ平和はやってこない。むしろ鎌田先生がパレスチナに行ったほうがいい。何かが変わるかもしれない」と、心臓の移植を受けた女の子の家を探してくれました。

少年のお父さんを連れて、ぼくはパレスチナ自治区からイスラエルへの旅をしました。イスラエル兵に銃で脅かされながらのとても怖い旅でした。女の子の家の玄関に入ると、女の子が一番に駆け寄ってきました。少年のお父さんはその女の子を抱きしめました。「嬉しい!まるで息子が生きているみたいだ」。そうなのです、12歳の女の子の身体の中で、息子の心臓が動いていたのです。パレスチナの少年の心臓が、イスラエルの病気の女の子を救い、立ち上がることも、歩くことも、学校に行くこともできなかった女の子が、学校に行けるようになったのです。

「ぼくが親父だったら、息子の心臓はあげられないけれど、よくあげられましたね」と少年のお父さんに聞くと、「海で溺れている人間がいたら、泳げる人間は海に飛び込む。その時にあなたの宗教は何?国はどこか?とは聞かない。困っている人がいた時に、宗教が同じだったり、国が同じだったら助けるというのではない。自分は人間として当たり前のことをしただけです」と答えました。

2016年にトランプがアメリカの大統領になった時から、アメリカ大使館をエルサレムに移したり、圧倒的にイスラエル覇権になり、パレスチナとイスラエルのバランスは崩れました。今大切なのは、お互いの大変さを知ることです。第二次世界大戦の時、ユダヤ人はとても大変だったよね。ユダヤ人が行くところがなかった時に、パレスチナにイスラエルを建国するようになり、そのために土地や家を追い出されたパレスチナ人に申し訳なかった。パレスチナの人たちも大変だったよね。お互いの大変さを分かり合うところからしか平和はやってこないのではないかと思います。

チョコ募金は今年も13万個。小さなNPOにとってはとても大変な数字です。北海道の六花亭の安全で美味しいチョコレート。缶はイラクやシリアのがんや血液の病気で治療中の子どもたちの絵が使われています。JIM-NETが、中東に平和が来るように活動していくためには、チョコ募金が活動資金になります。是非、たくさんの人にお声を掛けていただくと有難いです。みなさんの応援をどうぞよろしくお願いいたします。

チョコ缶の絵を描いてくれた子どもたち

【猫】ザリヤ (15歳)

診断名：白血病／

イラク・アルビル出身

2019年に白血病と診断され、骨髄移植を受ける必要があることがわかりました。とても人懐っこい性格で、たくさんの友達があります。「私の絵が、他の子どもたちの助けになれば、とっても嬉しいです」と話してくれました。



【花】シマ (12歳)

診断名：白血病／

イラク・アルビル出身

2023年に白血病が寛解して、学校に復学しました。病気を克服したシマの存在は、闘病中の子どもたちやその家族にとって希望の光になっています。いつも笑顔で明るい女の子です。シマのお父さんは、病気のためあまり働くことができず、厳しい経済状況です。

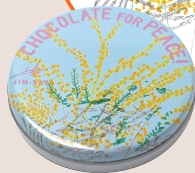
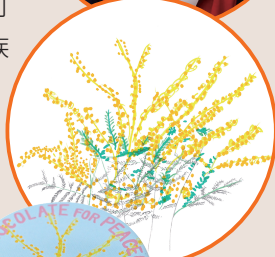


【ミモザ】シャーム (16歳)

診断名：血液の病気／

シリア・ダラア出身

2020年にアルビルに家族と共に逃れてきました。イラクでの滞在許可手続きを依頼した弁護士が、家族全員のパスポートと滞在許可取得の代金を持ったまま逃亡してしまいました。同時期にシャームが血液の病気であることが分かり、治療を開始しました。2023年秋に体調が悪化し、現在も厳しい治療を続けています。



【くらげ】ムハンマド (11歳)

診断名：白血病／

イラク・アルビル出身

白血病と診断され、2019年から治療をスタートし、現在は経過観察で通院しています。JIM-NETハウスに来た当初はとても物静かでしたが、最近はいろいろと話してくれます。将来の夢は、闘病の経験を活かして、小児科医になりたいと思っています。

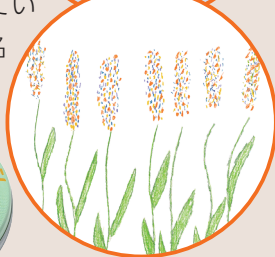


【猫じゃらし】ラハンド (13歳)

診断名：ユーイング肉腫／

イラク・アルビル出身

2018年からがんの一種である肉腫と闘っています。何度か再発しましたが、常に希望を持ち続け、治療にもぐっと歯を食いしばり耐えています。お父さんは、アルビルで有名な激安バザールでリヤカーを引きながら衣類を売り、ラハンドの治療費を必死に稼いでいます。



皆様にご協力いただき、昨年度実施できた活動をご紹介します！

イラクでは、情勢や治安の安定化に伴い、経済の回復や活気が戻りつつあります。

その一方、人々の生活に目を向けると、物価高の影響や難民を取り巻く生活は依然として厳しい状況が続いています。特に国内避難民やシリア難民の患者や患者家族が直面する経済的な困窮により、治療の継続が困難になってしまうケースもあります。また、子どもたちやその家族の心のケアの需要も高く、専門家に協力

を仰ぎながら、心のケアに取り組んでいます。イラク、シリアにおける難民支援では、不足する難民キャンプへの医薬品支援も継続して行っています。

円安の影響により、事業予算を縮小せざるを得ない状況に直面していますが、皆さまからご協力いただいたチョコ募金はこうした活動に使われ、がんの子どもたちやその家族、イラクやシリアで暮らす避難民の方々のもとに届いています。

イラク小児がん支援

【医薬品支援】

JIM-NET が支援する 4ヶ所の病院への医薬品を支援しました。

政府から病院に対する医薬品の供給が徐々に改善されつつありますが、必要な医薬品が届かなかったり、供給までに時間がかかってしまうことが多いため、各病院と連携して、医薬品を迅速に届けています。

【貧困患者支援】

抗がん剤や必要な医薬品の購入や病院までの交通費を支援しました。

病院に必要な医薬品の在庫がない場合は、外部の薬局で購入しなければなりません。貧困患者家族は医薬品を購入することができません。

また、病院までの交通費を払うことができない家族もいます。子どもたちが安心して治療を継続できるように行っている経済支援です。



貧困患者の家庭を訪問 (アルビル)

【心のケア】

子どもたち及び患者家族の心のケアを行いました。

- ・ 診察室前の待合所での子どもたちの不安を和らげるためのアクティビティ
- ・ 患者家族に対する相談サービス
- ・ がんの子どもを持つ親同士で悩みを話したり、情報交換をするピアサポートグループの実施

難民支援

【医薬品支援及び家族計画物資支援】

イラク国内 3ヶ所の難民キャンプ (国内避難民キャンプ及びシリア難民キャンプ)、シリア国内 2ヶ所の国内避難民キャンプに対して、鎮痛剤や抗生物質など基本的な医薬品も不足しているため医薬品を支援しました。



冬の保養活動 (北海道)

【粉ミルク支援】

シリア難民が住むダラシャクラン難民キャンプで乳糖不耐症の乳幼児が必要とする特殊ミルクを支援しました。

【手工芸ワークショップ】

ダラシャクラン難民キャンプでは、貧困層に属する女性たちに対して手工芸ワークショップを提供しました。生活の中で感じている不安や心配事を話す場としても大きな役割を果たしています。

福島支援

大阪、北海道、山形での保養活動や原子力災害関連の資料室開設などの活動への助成を実施しました。4年ぶりの開催となった保養活動もあり、「参加した子供たちも毎日とても喜んで、楽しく過ごしていました」との報告をいただきました。



鎌田實著／ピーター・バラカン英訳／集英社 1,980円（税込）

『アハメドくんのいのちのリレー』

小さな新聞記事を読んでから、ずっと気になっているパレスチナ人がいた。イスラエル兵に殺された息子アハメドの臓器を、敵国の病気の子どもたちを救うために差し出したイスマイル父さん。

イスラエルとパレスチナだけでなく世界中のひとに、アハメドを失った悲しみを横に置いて敵国の病気の子どもたちを助けたイスマイル父さんのことを知ってもらいたい。心臓を提供してくれたイスマイルさん一家のことを、もう一つの家族として大切に、「大人になったら自分も

パレスチナの子どもたちのいのちを救い、平和の橋を架ける人間になりたい」と語るイスラエルの少女サマハちゃんの言葉を聞いてもらいたい。

世界は「きっかけ」を待っている。イスマイル父さんが息子の心臓を提供したことから始まったやさしさのリレー。この「きっかけ」を忘れないために、平和の願いを込めて、ぼくはこの本を作りました。ぜひ読んでいただけると嬉しいです。



ご好評にお応えし、
来年も開催します

★JUSTPEACE! 絵画と写真展★ 2025年3月20日(木)～25日(火)

来年3月20日でイラク戦争開戦から22年を迎えます。2年前から神保町・文房堂ギャラリーとのご縁を頂戴し、この大切な時期に広い空間で子どもたちの絵画を中心にJIM-NETの活動を知って頂けるよう企画展を開催しています。広い窓、美しい音色のグランドピアノ、高い天井…、ギャラリーで展示準備をするたびにイラク現地でかかわる子どもたちの顔を思い浮かべます。

来場者の皆さまにイラクのことや子どもたちのことを

知って頂ける場、そして会話が弾む雰囲気作りを心がけています。いつもJIM-NETの活動を応援くださるアーティストの方とのオンラインインタビューをはじめ、会場内でのミニイベントも企画いたしますので、詳細情報を折に触れてJIM-NETのHPやSNSでギャラリー展のことをチェック頂ければ幸いです。3月にお会いできま

すことを楽しみに♡



♡チョコ募金♡お申込みは 11月25日(月)から受付スタート♡

お申込み先 電話：03-6908-8473
(平日10時30分～16時) | お申込み・詳細は
チョコ募金 →



※ 配送手数料は、別途ご負担をお願いしております。
お申込みの詳細は、同封のチョコ募金チラシをご覧ください。



Coffee for Peace! 大好評受付中



お申込み先 電話：03-6908-8473
(平日10時30分～16時) | お申込み・詳細は
Coffee for Peace! →



チョコ募金と一緒に申込みいただけます。
※ 配送手数料は、別途ご負担をお願いしております。



特定非営利活動法人 JIM-NET (ジムネット)
郵便振替口座 00540-2-94945 加入者名 日本イラク医療ネット
Facebook、Twitter、Instagramもぜひご覧ください。『JIM-NETで検索』

募金・サポーター会費はこちらへ→

